

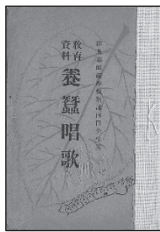
じつぎょうきょういくようさんしょうか

#26 実業教育養蠶唱歌

作歌：練木喜三（ねりき・きぞう 1850-1911）

作曲：前田久八（まえだ・きゅうはち 1874-1943）

刊行：明治35年（1902）



※左より、『実業教育養蠶唱歌』、『養蠶唱歌 教育資料』、『養蠶唱歌』

♪ 解題

■ 内容

本書は、一年を通してカイコを育て、繭を収穫するまでの方法、注意点、心構えを歌っている。表紙にはカイコの幼虫と、船尾に日の丸を立てた大きな船が描かれている。中表紙に続く「はしがき」には、この唱歌を歌うと良質の繭がよく採れるようになるが、これだけではまだ不足であり、自らが書いた『蠶教』を読むように、という趣旨の文章が作歌の練木喜三によって書かれている。次に数字譜を付記した五線譜があり、続いて歌詞が24番まで記される。また歌詞の上部には、それぞれの場面を描いた絵が掲載されている。巻末には『蠶教』の広告が掲載されており、教科書や参考書として最適である、と述べられている。また、本書には「教育最新圖書 前蠶業講習所長 練木喜三先生作歌 東京音楽学校教授 前田久八先生作曲 実業教育養蠶唱歌 全一冊」というチラシが付いており、その広告文から、当唱歌集を全国各地の小学校や家庭に売り出す意思が読み取れる。

国立国会図書館サーチによると、当館以外の公共図書館として群馬県立図

書館で所蔵が確認できる。

■ 作者

作曲の前田久八は音楽教育家、作曲家で、東京に生まれる。東京音楽学校を卒業後、同校助教授に就任し、洋楽鑑賞上の必要事項をわかりやすく書いた著書『家庭百科全書 第28編 洋楽手引』を出版した。当館に所蔵はないが、国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている。また明治学院大学、東洋大学京北中学校の校歌を作曲したことで知られる。

作歌の練木喜三は官吏で、埼玉県に生まれる。東京大学農学部卒業後、農商務省にはいり、蚕業試験場技師、蚕業講習所所長、大日本蚕糸会理事などを歴任した。恩賜賞、蚕糸功績賞金賞牌を受賞。『蠶教』（1901）、『女子蚕業教科書』（1906）など著書が多数ある。当館に所蔵はないが、『蠶教』は国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている。

■ 養蚕唱歌

養蚕唱歌は産業奨励唱歌の一種で、その多くが明治30～40年代に製作されている。明治政府は殖産興業を方針とし、生糸は、外貨獲得のための輸出品として最も重要視された。養蚕農家は、繁忙期になると養蚕休校が設置され、一家総出で作業を行なったため、子どもでも養蚕の知識や仕事内容が楽しく学べるよう、養蚕唱歌が作られた。

♪ 類似の唱歌集

- ・『養蠶唱歌 教育資料』滝上豹三郎著 矢島昭策作曲 日新舎 1901 [SH767.7/34]
- ・『養蠶唱歌』秀英舎編輯所作歌 山田源一郎作曲 秀英舎 1901 [SH767.6/61]

♪ 参考文献

- ・『農林水産省における蚕糸試験研究の歴史』北村實彬・野崎稔著 農業生物資源研究所 2004 [630.76/6] ※県立川崎図書館所蔵
- ・『日本の蚕糸のものがたり』高木賢編著 大成出版社 2014 [K63.1/42]
- ・『お蚕は歌う』篠崎洋子 2016 [K63.1/43]

＃26 実業教育養蠶唱歌

・金子敦子「明治・大正時代の日本の養蚕・蚕糸業と「養蚕唱歌」」（『日本シルク学会誌』第26巻 日本シルク学会 2018）

※当館未所蔵 日本シルク学会 HP で閲覧可

https://www.jstage.jst.go.jp/article/silk/26/0/26_59/_article/-char/ja/